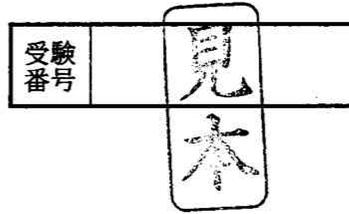


'13

前期日程



生活・健康系共通 小論文問題

(教育学部)

注意事項

1. 試験開始の合図があるまで問題冊子を開いてはいけません。
2. 問題に落丁、乱丁、印刷不鮮明の箇所等があった場合には申し出てください。
3. 解答は指定の答案用紙に記入してください。
4. 答案用紙は持ち帰ってはいけません。
5. 問題冊子と下書用紙は持ち帰ってください。
6. 時間は 60 分です。

◇M19(707-103)

問 題

私たち人間にとって安全で健康的な環境を維持・発展させていくためには、どのようなことが必要か、以下の文章の内容を参考にして、あなたの考えを600字以内で述べなさい。

水俣病は鏡である。この鏡は、みる人によって深くも、浅くも、平板にも立体的にもみえる。そこに、社会のしくみや政治のありよう、そして、みずからの生きざままで、あらゆるものが残酷なまでに映しだされてしまう。そのことは、それを見た人たちにとっては強烈な衝撃となり、忘れ得ないものとなる。

私にとって、水俣病をつうじてみた世界は、人間の社会のなかに巣くっている抜きさしならぬ亀裂、差別の構造であった。そして私自身、その人を人と思わない状況の存在に慣れ、その差別の構造のなかで、みずからがどこに身を置いているのかもみえた。結論として、水俣病をおこした真の原因は、その人を人と思わない状況(差別)であり、被害を拡大し、いまだにその救済を怠っているのも、人を人と思わない人間差別にあることがみえてきた。

ピポクラテスは、下医は病気を治す、中医は人間を治す、上医は社会を治すといったが、同様ないい方をすれば、水俣病の小なる原因は有機水銀であり、中なる原因はチツソが廃液をたれ流したことであり、大なる原因は人を人としてあつかわなかったことにある。清水誠(東京都立大)は「人が人として扱われない、あるいは、人として生かされないということが人間疎外なので、そういうものに対する憤りから組み立てていく社会科学でなければならない」と述べているが、まさにそれが科学の原点ではないかと思う。そのような視点にたって見直すと、そのような疎外状況は、この国のいたるところに存在している。そして、現在の水俣病の多様で複雑な問題も意外と単純なかたちでみえてくる。病像論争や救済のあり方、運動から裁判、そういったもののなかにもそれを見ることができるのである。

さらに、水俣病以外のさまざまな事件に目を転じてみると、各地の開発をめぐる問題や紛争、公害事件、職業病、労災にもまったく同様の構造をみることができ。ま

た、世界的規模で見たとき、先進工業国と発展途上国のあいだの関係、貧困、人種問題、地域紛争のなかにも、同様にその構造をみることができる。そして、それこそが、地球的規模で環境を破壊し、人間を傷つけ、胎児を殺戮しつづけていることがわかる。

水俣はまさに鏡である。そこに映してみることは世界を映すことになる。そして、いまほど水俣を語る必要があるときはない。

原田正純著「水俣病が映す世界」日本評論社 1989 年より抜粋

【注】

病像(びょうぞう)＝病気の存在を前提として、その患者に共通する特徴のことを
病態(びょうたい)あるいは病像(びょうぞう)という。

殺戮(さつりく)＝残忍な方法で多くの人を殺すこと。